



発行所
一般財団法人
広島県動員学徒等犠牲者の会
事務局
広島市南区比治山本町12-2
広島県社会福祉会館内
〒732-0816 電話 (082) 252-0316
印刷所 **Taisei**

デジタルブック
“衝突の証言”
<http://www.douingakuto.com/>

サーロー節子さんの証言

昨年12月10日、ノルウェーのオスロで「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」がノーベル平和賞を受賞し、動員学徒として被爆したサーロー節子さんが、「2017年7月7日の核兵器禁止条約の採択を、核兵器の終りの始まり」にしようではありませんか」と受賞演説されたことは、記憶に新しいところです。

平成19年に当会が作成した「動員学徒「慟哭の証言」」に、そのサーロー節子さんの「ヒロシマを語り続ける」と題した証言を載せています。被爆時の体験及び被爆地ヒロシマを語り続ける使命感など、核兵器撲滅運動への示唆に富んだ内容と思われまますので、原文のままご紹介いたします。

ヒロシマを語り続ける サーロー 節子

昭和二十年八月六日、私は十三歳で中学二年の動員学徒だった。私たち一部の生徒は爆心地から一・八キロメートル離れた第二総軍司令部で、敵の暗号を解読する作業の初日であった。

私たちは八時十五分、木造建築の二階にいた。ちょうどその時、柳内少佐が、「天皇陛下のために最善を尽くして、与えられた任務を全うし

ろ」という訓示を終えられたところだった。その瞬間、窓全体を覆う青白いマグネシウムのような閃光を見た。私の体が宙に飛ばされ、浮流していた時までの記憶はある。真っ暗闇の静けさの中で私が意識を取り戻した時に、破壊した建物の梁の下敷きとなって身動きできない状態にあることが分かった。奇妙なことに、死に直面している私に心の動

目次

サーロー節子さんの証言……………	1～3
第62回原爆死没者追悼式のご案内……………	3
平成29年度事業報告・収支決算……………	3～4
研修を終えて……………	5
理事・監事及び評議員の選任……………	5
奈良県立ろう学校生徒様の寄書き……………	6～7
平成30年度行事予定表……………	8
ご寄付お礼……………	8

揺はなく、平静に祈った。そのうちに「お母さん、助けて」「神様、助けて下さい」というクラスメートの微かな声が聞こえてきた。安藤さんの声は今でも聞こえてくる。突然、私の左肩をつかんで、「あきらめろ。体を動かし続けて早く逃げろ。自分が助けてやるから。左側に光線が見えるだろ。それに向かって這い出せ」と、軍人さんらしき人が命令した。

やっと崩壊した建物を這い出した時には、建物は既に猛火に包まれ、私の周囲にいたほとんどのクラスメートはその下敷きになり、焼死した。兵隊が「這い出た者は、早く二葉山へ逃げろ」と命令した。爆弾が投下されたのは午前中のことだったのに、周囲を見回すと暗闇の中を、市の中心から二葉山へ逃げていく人々の行列を見た。人間とは見

えない、幽霊のように足を引きずってゆつくりと歩いていった。よく見ると髪の毛は逆立ち、肢体は傷つき、裸に近く、焼け爛れてボロボロの服、中には全裸で赤黒く焼け爛れて腫れ上がり、目玉が飛び出している人もいた。皮膚と筋肉が骨からぶら下がり、火傷の痛みを少なくするために、胸の高さに手を上げてノロノロと歩き続ける人たちは、無声映画のスローモーションのイメージのように思えた。その人たちは折り重なって倒れ、再び立ち上がることはなかった。二、三の生き延びたクラスメートと共にその行列に加わって、死体や瀕死の人々を踏まないように注意して、二葉山に向けて歩いた。二葉山の麓には東練兵場があり、そこは小声で水を求めて呟く瀕死の怪我人だらけで埋まっていた。「水を、水を」と求められても、バケツもコップもなく、兵隊たちがそれらの人々に水をあげることを禁じた。水を飲むと早く死ぬるという理由だった。医師、看護婦も見つけられなかった。私たちは近くの小川で血を洗い、そして破れた衣服を裂いて水に浸し、水を求める人たちの口を湿してあげた。その人たちは、チューチューと音をたてて必死に水分を吸った。私たちは終日その作業をした。夕暮れには山の丘に座って、山積みの死体を見ながら、死にあえぐ人たちのうめき声を耳にしなが

広島全体が焼けるのを無感動で眺めた。

街の中心では、七、八千人の中1、中2の学徒たちが、市中全校から動員されて家屋疎開の作業に当たっていた。私たちの女学院一、二年、数人の先生を加えて三百五十一人ばかりが、そこで即死、跡形もなく蒸発した。多くは火傷で膨れ上がり、お互いの声だけで相手が誰か分かったと聞いた。私の従妹、女学院一年の難波時子も、私の義姉で、その年できたばかりの広島女子高等師範学校から山中女学校の監督として作業していた人々も、二度と目にすることはできなかった。

私の親友、村本節子もその場で働いていたが、幸運にも生き延び、多くの友人の生命の最期を目撃し、生き残った私たちにその時の状況を話してくれた。皆で泥水を飲みながら、数学の米原睦子先生の勧めで円状に集まり、小さな声で讃美歌を歌ったと言った。その讃美歌の一つが『主よみもとに近づかん……』（讃美歌三二〇番）で、歌いながら一人一人死んでいった。米原先生が、「歩ける人は一緒に日赤病院へ参りましょう。私の肩にもたれて下さい」と言われたので、村本さんは先生の右肩に手をやると、ブルツと皮膚と筋肉が取れて肩の白い骨が見えた、と報告した。病院には既に助けを求めて来た人たちが、廊下にも

庭にも一寸の余地なく横たわっていたとのこと。数日後、米原先生はこの病院で治療も受けられずに息を引き取られた。

幸いにも私の父は、宮島近くの海で趣味の魚釣りをしていた。きのこ雲を見てすぐさま、崩壊した自宅まで徒歩で帰り着いたものの、午後二時頃、大火が転火したらしい。母は火事になる前に、壊れた家から這い出した。しかし、私の姉は疎開先から前夜帰宅して、あの瞬間に四歳の英治を連れて眼科病院へ行くため、柳橋で真つ黒焦げに焼かれ、一日後に私が二人を見たときは、平常の面影はなかった。二人は一週間ばかりの間、水を求めながら、焼け爛れた身体から悪臭を放ちながら、ついに死によって苦しみから解放された。軍人たちは土を掘り、死体を投げ込み、ガソリンとマッチで死体を焼いた。竹ざおで体をひっくり返ししながら、「まだ腹が完全に焼けていない。腸もまだだ」とつぶやいていた。両親と十三歳の私はそこに立ち、涙もなく無感動に眺めていた。人間の尊厳も何もあつたものではない。虫けら同様に短い人生を閉ざされたのであった。後日、私の友人が告げてくれたことによると、翌日、彼女の家の焼け跡に行つて、家族全員の白骨を見たときは、涙も出なかったということだ。

私は長年この記憶で苦しんだ。し

かし一人の米国精神医の研究によつて「精神閉鎖、精神的無感覚」という新語で、極限の状態で認識力は存在しても心理的反応が減少し、適切でなくなるということだった。この説は私の心の傷を癒してくれた。原爆は恐ろしい熱風で街を、人間を焼き殺すのみでなく、放射能というかつて人間の経験したことのない破壊力をもたらした。私の家族や友人の間でも、多くの人々が放射能のためにだんだんと死んでいった。紫色のあざが体に出ると死の予告だということで、その頃の毎朝、恐る恐る体を調べたものだった。私の叔父と叔母は牛田に疎開していた何の傷もなかった。しかし、二週間後から紫の斑点が出はじめ、間もなく死んだ。彼らの世話を最後までした私の母の言葉を借りると、「彼らの内臓は腐敗して溶け、黒いドロドロの液体となつて出て来た」。

私は女学院大学を卒業した年の夏に、米国の大学から奨学金を受け、渡米した。その年の三月一日に米国の水爆実験がビキニで行われ、島民が殺傷され、日本人には魚の補給がなくなり、環境破壊、おまけに日本人船員たちの死傷があり、一大事件として騒がれていた。目的地に到着するや記者連に囲まれ、この事件に対する私の意見を求められたので、正直にはつきりと私の考えを説明した。早速、大学の私の郵便箱

には無名の脅しの手紙が来るようになった。

この経験は、被爆者として米国での私の責任は何であるのか、身の安全のために口をつむぐか、あえて公式の場でも発言を続けるか、恐怖と孤独感で数日間苦しんだ。結果として、自分がヒロシマを語り続けることが私の使命であり、責任であり、学生や家族を犬死させないだけでなく、核時代の到来の意味を世界の人々と共に語り合い、核兵器廃絶の目的に向かって運動すべきだという自覚を強くした。

私たち被爆者は、核兵器を、人類と共存できるはずのない許されざる悪と考えている。核兵器には人類と文明を滅ぼす可能性があるからだ。近代の核兵器は最初に広島に落とされた爆弾の何千倍もの威力を持つからこそ、私たちは核兵器の全廃を強く求めている。それは理想であり、未熟な者の考えだと言う人もいるだろう。でも、今日では、核兵器開発に必要な技術的知識や経験を持つ軍事関係者さえも核兵器撲滅を支持している。

奴隷解放、植民地主義の終わり、アパルトヘイトの終焉、アメリカの女性解放運動・市民権運動など、過去における偉大を社会改革の動きを思い起こしてみよう。これらの運動は最初、数人の志から始まり、人々からの嘲笑を受けながらも、つ

いには、打ち勝ってきた。これらの運動と同じく核兵器撲滅は、私たちの子どもたちや子孫に未来を保障するという倫理上の問題に基づいている。

私は、高校生のとき、世界教会会議の報告書を読んだことがある。そこに書かれている平和の定義を読んで、強く衝撃を受けたことを覚えている。それは、「平和とは全ての人に正義をもたらそうとする努力の過程なのです」

広島市の平和公園に、「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」と書かれた慰霊碑がある。何の過ちで誰の過ちかは、あえて記されていない。アメリカを非難の矛先にしたいと思う人もいるだろうが、私は、広島市の市民の皆さんがこの問題をより崇高で、哲学的な水準でとらえ、すべての人が求めるものは、暴力や戦争の恐怖から開放される文化的な変革として、いることにとっても満足している

「過去を覚えるものは未来のために働くものである。広島を覚えるものは平和のために働くものである」。これは、今年召天されたローマ法王パウロⅡ世が、広島を訪れたときに残された言葉だ。

……七十三歳（執筆時）
（旧姓中村）

高女五十六回・大英二回、
カナダ・オンタリオ州在住

第62回原爆死没者追悼式のご案内

巡り来る8月6日が近付いて参りました。午前9時から動員学徒慰霊塔の前において、会として第62回目原爆死没者追悼式を執り行います。

お暑い時期ですが、お体にお気をつけてくださいますようお願いいたします。

前日の8月5日には、慰霊塔周辺の掃除を済ませたあと（10時前後になると思います）、慰霊塔の東隣にある西向寺様で仏式の供養を行っております。ご参加いただければ幸いです。



昨年8月5日の供養会の模様

お世話になる方々

広島県

健康福祉局長 田中 剛

社会援護課長 日下 仁彦

援護恩給グループ

主 幹 安永 久人

事業調整員 泉岡 幹雄

事業調整員 山口 博幸

事業調整員 岩井 明子

事業調整員 舩石 幸恵

援護恩給グループ

電話 082-513-3036

広島市

健康福祉局長 古川 智之

健康福祉局次長 谷 康宣

健康福祉局 沖村 慶司

健康福祉局 保険年金課長 南部 克徳

健康福祉局 保険年金課長補佐

（事）管理係長 前田 博幸

健康福祉局 保険年金課 大下 直哉

健康福祉局 保険年金課 山本 勝彦

健康福祉局 原爆被害対策部調査課

事務指導員（追悼式補助金担当）

電話 082-504-2159

電話 082-504-2191

平成29年度事業報告書

1 広報活動の実施

(1) 原爆死没者追悼式の案内

会報「ともしび第126号」の送付に合わせ追悼式の案内を送った。

(2) 会報「ともしび」の印刷・配布

・平成29年6月30日付け第126号 1,100部

・平成29年11月30日付け第127号 1,100部

(3) ホームページの運用

ア 会報「ともしび」の掲載126号・127号

イ アクセス数（30・31）…

5,141件（29年度アクセス数915件）

(4) 「慟哭の証言」を関係機関等に配布

慰霊塔に千羽鶴を献納していただいた学校等へ冊子「慟哭の証言」を送付した。

送付数…12件

(5) 慰霊塔説明文の設置

慰霊塔の説明文を常時設置し、参拝者の理解の一助にした。（4万部印刷）

(6) 動員学徒等の業績の顕彰とその精神の啓発

慰霊塔の清掃日等を利用して、随時、参拝者に対して原

平成29年度 収支決算書
平成29年4月1日から平成30年3月31日まで
(単位:円)

29 ・ 10 ・ 20	29 ・ 9 ・ 20	29 ・ 7 ・ 6	29 ・ 6 ・ 20	29 ・ 5 ・ 24	29 ・ 5 ・ 8
報告第2号	理事会 報告第1号	原爆死没者追悼式反省会	理事会 協議事項 慰霊塔裏側の戦没学徒出 身校に注記を作製する件	定時評議員会 議案第1号 議案第2号	理事会 議案第1号 議案第2号 議案第3号
件 いきいき活動ポイン トの適用に関する件	弔慰金の支給に関する 件			平成28年度事業報告書 に関する件 平成28年度収支決算の 承認に関する件	平成28年度事業報告書 に関する件 平成28年度収支決算の 承認に関する件 定時評議員会の招集の 決定に関する件

30・3・23	理事会・臨時評議員会 議案第1号 議案第2号 関する件 平成30年度事業計画に 関する件 平成30年度収支予算に 関する件
----------------	--

5 研修会の実施

(1)日時 平成29年6月20日(火)

10時～12時

場所 広島平和祈念資料館東館

内容 リニューアルした広島平和祈念資料館東館の見学

講師 辻靖司様(評議員)

(2)日時 平成29年12月20日(水)

10時～11時

場所 西向寺門徒会館

内容 本会設立時の経緯～会設

立60周年に当たって～

6 その他	(1) 慰霊塔の修繕及び周辺の環境整備	
講師 寺前妙子前副理事長		
日時	工事名	工事内容
29.5.18	水槽の賛の作製	水槽の金属製の賛が腐食しており、プラスチック製の賛を作り製
29.7.20	戦没学徒出身校の注記盤の作成、文字色落ち修正	記載されているすべての学校の生徒が被爆死亡したとの誤解があるため注記を付けるとともに、文字の色落ちした部分を修正
(2) ともしびのデジタル化 会報「ともしび」の創刊（昭和32年5月）から60年経過し、紙面の劣化が著しいため、長期間の保存に耐えられるようデジタル化してCDに保存した。		

研修会を終えて

津田 久美子



寺前さんを講師に迎えての研修会模様

平成29年12月20日に西向寺門徒会館において、本会設立時の初代会長であった寺前妙子(当会前副理事長)さんを講師として、当会の設立時のご苦労話などについて学ぶ研修会に参加させていただきましたので、その概要をお話します。

(参加者は、いつも慰霊碑周辺の清掃及び供養会に参加している方々で、理事長以下18名でした。)

寺前さんは、爆心地からわずか540mの動員学徒先の電話局で被

爆されましたが、現在まで力強く生き抜いていらつしやいます。

終戦後、寺前さんの心の中には、動員は国のためであったのに、何ら報われていない大勢の方々を、何とか救済できないものか、という思いがありました。

そんな折、二十代半ばの頃、同じような境遇の方や志を持った多くの方との出会いがあり、国に動員学徒及び遺族に対する補償を要求する活動を始められます。市、県などに訴えますが、最初は良い返事は、返ってきませんでした。途方に暮れた寺前さん達でしたが、粘り強く県に通い続けた結果、県が動員学徒犠牲者の会設立のため尽力していただくこととなりました。

また、死没者名簿を作成するために、市役所、市町村役場、学校をくまなく訪ねてまわられました。原爆で学校自体が壊滅した所もあり、そのご苦労は並大抵ではなかったとのこと。活動資金獲得面においても、寄付を集めるなど相当のご苦労があったようです。

そして、広島で戦災孤児収容所を設立された当時参議院議員の山下義信氏などのご尽力もあり、昭和32年2月17日にやつこのことで本会設立となり、学徒及び遺族の補償などについて、以後国会への陳情を粘り強く行っていくこととなりました。

この年、先の山下義信氏のご提唱

により、広島市の光道会館において第一回の「動員学徒慰霊祭」が行われ、戦後初の慰霊祭とのことで、参拝者一同は感激を新たにしたいとのことでした。

会を設立し、60年もの長きにわたって会を支えてこられた寺前さんの被爆者証言活動、動員学徒慰霊塔の建立、原爆医療法など多方面での奔走のご苦労を思うと、本当に頭が下がります。

最後に、寺前さんが歌って聞かせてくださった、大切にされている学徒の歌を記します。

ああ紅の血は燃ゆる

(昭和19年)

作詩 野村俊夫
作曲 明本京静

花もつぼみの若桜
五尺の生命(いのち) ひっさげて
国の大事に殉ずるは
我ら学徒の面目ぞ
ああ紅の血は燃ゆる

理事、監事及び評議員の選任

5月24日の定時評議員会において、理事、監事は任期満了により、評議員は辞任等により新たに次のとおり選任され、理事長には井上公夫が、副理事長に本地正治が選定され

ました。

なお、任期は、理事、監事は2年、新任の評議員の任期は前任者の残存期間となっています。

理事

井上 公夫 村中和子 谷口了子
中尾俊男 松浦輝紀 谷村美智子
本地正治 武田実智恵(新任)
辻靖司(新任)

監事

徳田由子 早稲田良子(新任)

評議員

三木島彦(新任) 津田久美子(新任)
(既に就任の評議員)

福場隆子 茨木和子 平野みさ子
渡美津子 寺田博 久村和夫
日和隼巳

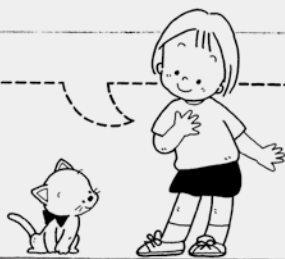


寺前前副理事長を囲む新役員一同



動員学徒等犠牲者の会の方へ

私は平和な世界を作りたいと強く思っています。
気が付くがって世界中、協力して平和な世
界を作りたいです。家族から命を大切に
生きていきたいです。大丈夫なら広島に行き
たい(はいお祈り)したいです。



羽田 輝星

平和の 誓い



奈良県立ろう学校

6年生一同

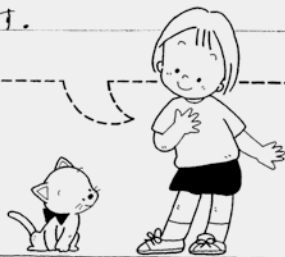
千羽鶴献納のお礼に冊子「動員学徒「慟哭の証言」」をお送りしたところ、奈良県立ろう学校6年生一同様から寄書きを送っていただきましたので、ご紹介いたします。

奈良県立ろう学校生徒様からの寄書き



動員学徒等犠牲者の会の方へ

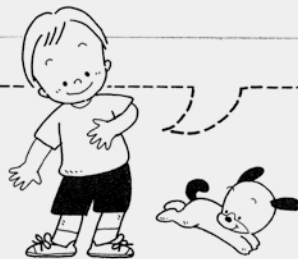
私たちは戦争を知らない時代に生きて
生きています。
だからこそ、戦争のあつらひと悲しさを知らなくて
はいけないと思いました。
私たちは平和を誓って生きて行きたい
と思います。



大石 未羽

動員学徒等犠牲者の会の方へ

私は両方からもらった命を大切にすることを
誓います。本を送って下さってありがとうございます。未来
はミサイルを使うのはダメです。日本の
中の学校生に平和を思い、外国人
も来てほしいと思います。

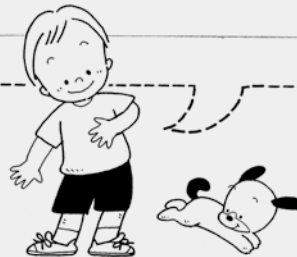


土居 旺英 君



本をありがとう

広島原爆で、多勢の人々が、
亡くなつてしまいました。二度と戦争を
起こしてはいけません。平和を願って、
世界中の人々と心が共有できたらいい
なと思います。そして、命を大切に
します。

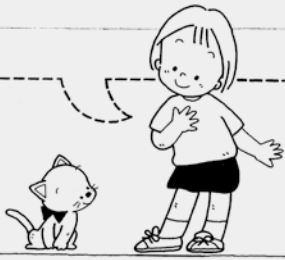


古越 拓郎



動員学徒等犠牲者の会のみなさんへ

私たちは戦争について、学んできて、
分かったのは、戦争は人と人、動物や
建物まで、なくすので、戦争は、とて
もおそろしいことです。
平和を守ります。



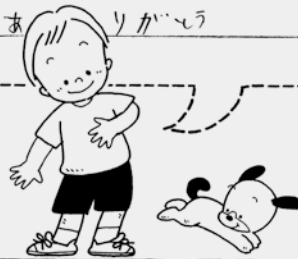
高野愛華



動員学徒等犠牲者の会のみなさんへ

今も世界には核兵器を持ち
ミサイルをうっている国があ
ります。平和学習をして絶対
にしないといけないと思っ
ています。

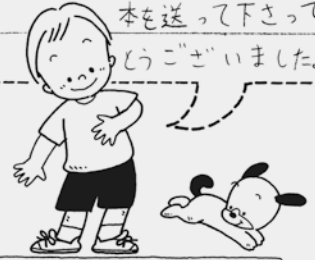
本をありがとう



平野桂

本を送って下さったみなさんへ

もし戦争がまた起こったら、
ぼくや父さんが兵隊になって戦争に
行くのでしょうか。それは絶対いや
です。だから、戦争の怖さも知ら
ない人々に少しでも伝えようと思
います。本を送って下さって
ありがどうございました。

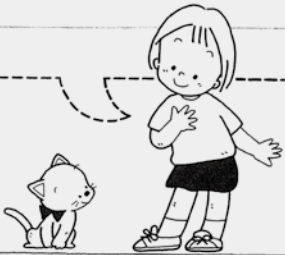


芦高和希



動員学徒等犠牲者の会のみなさんへ

私たち、平和の事を学びました。
広島におそろしい原子爆弾が落ちた
さんの人が亡くなったことを知りました。
ずっと平和にいてほしいです。
本をありがとうございました。

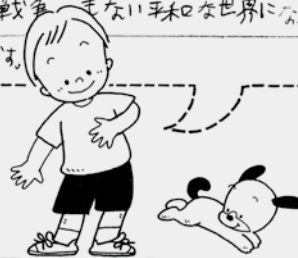


村上 希



動員学徒等犠牲者の会のみなさんへ

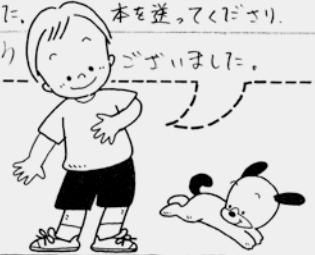
ぼくたちは、戦争の苦しみについて
学びました。罪もない命がうばわ
れ、ひどいです。王現在は、平和ロ
から、とても幸せだと思いました。
でも、世界がまた、戦争する事知
っています。ミサイルも戦争、ま
ない平和な世界になって
ほしいです。



平井 海翔

本を送って下さったみなさんへ

私は両親からもらって命を大切に
していこう!と強く思います。そして
友達に暴力をふるったり、悪口を言
ったりしないことをこれからも守り
続けます! 広島に行くと戦争はこ
わいと改めて感じました。本を
送ってくださり、ありがどう
ございました。



藤井 くるみ



平成30年度 行事予定表

一般財団法人 広島県動員学徒等犠牲者の会

年	月	日	曜	清掃後読経	月	日	曜	清掃（行事がないときは解散）
平成30年	4	6	金		4	24	火	監事会（県社会福祉会館）
	5	7	月	理事会（西向寺） （平成29年度収支決算の承認、役員改選）	5	24	木	定時評議員会・理事会（西向寺） （平成29年度収支決算の承認、役員選任）
	6	6	水		6	20	水	
	7	6	金	追悼式打ち合わせ会（役割分担等） 会報「ともしび」封筒入れ（西向寺）	7	20	金	
	8	5	日	供養会	8	20	月	
		6	月	第62回原爆死没者追悼式				
	9	6	木	追悼式反省会(西向寺)	9	20	木	
	10	9	火		10	22	月	
	11	7	水		/	/	/	
平成31年	12	6	木	会報ともしび封筒入れ（西向寺）	12	20	木	研修会（西向寺）
	1	10	木		/	/	/	
	2	6	水		/	/	/	
	3	6	水		3	25	月	理事会・臨時評議員会（西向寺） （平成31年度収支予算承認）

(注)
1 慰霊塔付近の清掃は、午前9時30分からです。雨天の場合も実施します。
2 左欄は、慰霊塔付近の清掃後「西向寺」で読経。
右欄は、行事がないときは清掃後解散。
※5月2日（水）は、有志で花と水を取り替えます。
なお、「西向寺」様の都合によって、日程変更する場合があります。

「平和への祈りコンサート」のお知らせ

「動員学徒犠牲者に捧ぐ」と銘打ったコンサートが次のとおり開催され、本会も後援をしています。

とき 平成30年7月7日（土）
午後2時から

ところ 日本キリスト教団
広島流川教会
（中区上幟町8-30）

入場料 2000円

申込 動員学徒等遺族などの方は、
090-6401-7635（新井）
に電話して予約してください。

ご寄付お礼

平成29年11月から平成30年5月までに、次の皆様から貴重なご寄付をいただきました。ご厚志、誠にありがとうございました。

清水里子様
平野暉雄様
木原始孝様
小崎圭子様
石田英雄様

ご寄付いただく際には、左記の口座へお振り込みください。

ゆうちょ銀行
振替口座
0130001618858
一般財団法人
広島県動員学徒等犠牲者の会

あとがき

カープファンにとって待ちに待った、セリーグ3連覇と2年連続取り逃がした日本一を目指してのペナントレースが開幕しました。が、この3か月間は、先発の替え時が遅れたり、中継・抑えが打たれて勝利をフィニシしたりと、投手起用のベンチワークの悪さが目立ちますね。また、野手はここぞというときに凡打の山を築いたり、タイムリーエラーして勝運を敵にプレゼントしたりと、まるで、昨シーズン終盤の不調さを再現しているようです。なのに、なぜか首位にいる。いかにセリーグ球団が不甲斐ないかですね。

昨シーズンは、好調の初盤・中盤の貯金が効いての優勝でした。今年は、きつと、きつと、中盤・終盤に投手、野手共に絶好調になり、CS、日本シリーズと制覇することでしょう。それを期待・熱望しましょう。（秋には美酒が飲めますように！）
（本地正治）